宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2023

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

靖國神社で秋季例大祭、通常通り

英霊に感謝、世界平和を祈願

東京都千代田区

東京都千代田区の靖國神社（山口建史宮司）で令和5年秋季例大祭が10月17日の清祓から始まり19日までの3日間斎行された。新型コロナウイルス感染症の発生以来大幅に規模を縮小して例大祭を行ってきたが、今年の秋季例大祭からはコロナ禍以前と同じ、通常通りの開催となった。

参向する勅使の唐橋在倫掌典＝10月18日、東京都千代田区の靖国神社

秋季例大祭に合わせ、岸田文雄首相は17日、「内閣総理大臣 岸田文雄」名で真榊を奉納した。また、西村康稔経済産業相は16日に、進藤義孝経済再生担当相と高市早苗経済安全保障担当相は17日に参拝した。超党派の議員連盟「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」の国会議員96人が18日朝参拝し、皇室からは18日の午後に瑤子女王殿下が参拝された。

秋風が吹き、晴れた10月18日午前10時、大太鼓が静寂な境内に鳴り響き、宮司・神職が参進。本殿所定の座に着いた。国歌斉唱に続き本殿内陣の御扉が開かれ、神饌が供せられ、初獻の神酒を奠した。その後宮司は神前に進み祝詞を奏上、英霊に感謝の誠を捧げた。二獻の神酒を奠した後、勅使（唐橋在倫掌典）が御幣物を奉して参向、本殿所定の座に着く。宮司は御幣物を神前に奉奠した。勅使は神前に進み御祭文を奏上。宮司が御祭文を内陣に納め、勅使は玉串を奉って拝礼した。

勅使・随員下向後、フォイエルコール混声合唱団による「鎮魂頌」「靖國神社の歌」が奉奏され、三獻の神酒を奠した後、宮司が玉串を奉って拝礼した。宮司に続き特別参列者及び崇敬者総代が本殿に進み玉串を奉って拝礼。午後3時、御幣物、神饌が徹せられた後、宮司が御扉を閉じ秋季例大祭当日祭は滞りなく修められた。

山口建史宮司は書中をもって参列者に御礼の挨拶を述べた。「明治天皇の思し召しにより創建されて以来、皇室の篤い御殊遇を賜わり、御遺族、戦友、崇敬者、諸団体皆様の御崇敬の真心の上に、日々絶やすことなく奉慰顕彰の祭祀を積み重ねてきた。

御本殿に鎮まります御祭神は迫りくる国難に際して、祖国の平安、愛する人々を守るために国事に殉じられ、わが国の悠久の国柄、伝統や文化を守り繋いで下さった。国家国民に尽くされた御祭神の御事績に慰霊と感謝の誠を捧げて、国家の平安と子孫繁栄を願われた御心を受け継ぎ、世の平安を祈り続けること、また平和の尊さを次世代に伝えて行くことは、託されたこの国に生きる私どもの務めである。

参進する山口建史靖國神社宮司

そして、日々感謝の心、助け合いの心をもって、心豊かにそれぞれの務めを果たしていくことこそが、国家国民を守護する御祭神の御加護に応え、家族や地域社会、そしてわが国の明るい将来を築いていくことに繋がるものと存ずる」

秋季例大祭の期間中、境内では登流派家元による献華展や奉納菊花展、能楽堂では各種奉納芸能が行われ、17日から19日にかけて剣詩舞、日本舞踊、琵琶楽、奉納演奏、江戸芸かっぽれ、詩吟、古武道、居合道、剣舞術、講談、浪曲、合唱、津軽三味線、仕舞・連吟、大正琴、吹奏楽、琉球舞踊などの日本古来の芸能が、多くの参拝者が見守る中、奉納された。

灯

「神に従う人の魂は神の手で守られ、もはやいかなる責め苦も受けることはない。愚か者たちの目には彼らは死んだ者と映り、この世からの旅立ちは災い、自分たちからの離別は破滅に見えた。ところが彼らは平和のうちにいる。人間の目には懲らしめを受けたように見えても、不滅への大いなる希望が彼らにはある。わずかな試練を受けた後、豊かな恵みを得る。神が彼らを試し、御自分にふさわしい者と判断されたからである。…主に依り頼む人は真理を悟り、信じる人は主の愛のうちに主と共に生きる。主に清められた人々には恵みと憐れみがあり、主に選ばれた人は主の訪れを受けるからである。」（知恵3：1―5、9）

キリスト教世界では、古くから11月に死者を追悼する習慣がある。1日は信仰の模範を示したすべての聖人、殉教者を記念する「諸聖人の日（万聖節）」、2日は、その他すべての死者のために祈る日として「死者の日」と定めている。そこでもまた、先祖や友人知人への哀悼を捧げ、彼らが天上で神の愛の懐に抱かれるようにと祈っている。（I）

来年、浄土宗は開宗850年に

知恩院で「お待ち受け法要」

京都市

法然上人の生涯を講話する福原隆善百萬遍知恩寺法主＝10月4日、京都市東山区の知恩院

浄土宗では来年、開宗850年を迎えるのを慶讃し、総本山知恩院（京都市東山区）と全国七大本山の計8寺院が10月2日から9日まで、知恩院本堂において「お待ち受け法要」を厳修。堂内には読経の声が響きわたり、参拝者は手を合わせ宗祖法然上人への感謝を深めていた。8寺院が知恩院に集まって連日法要を修めるのは初めてのこと。

初日の10月2日は大本山善光寺（長野市）が、鷹司誓玉（せいぎょく）法主を導師に、法然の主要な教えをまとめた『選択本願念仏集』を、法要に仕える僧侶「式衆」と唱えるように訓読した。約500人の参拝者は最後に「南無阿弥陀仏」を唱え法然上人に感謝をささげた。善光寺は、浄土宗尼御前寺院として唯一の大本山である。

3日は大本山光明寺（神奈川県鎌倉市）が、柴田哲彦（てつげん）法主を導師に「引声（いんぜい）法要」を奉修した。引声とは節回しを長く引き延ばす声明で、阿弥陀経・念仏を唱え、「香盤行道（こうばんぎょうどう）」の行法で仏を讃えた。光明寺は十夜法要発祥の寺でもある。

4日は大本山百萬遍知恩寺（京都市左京区）が福原隆善（りゅうぜん）法主を導師に法要を勤め た。福原法主は、父の遺言に従って法然上人が仇討ちをせず、父をはじめ万民を救う道を探求するために美作を出発し、悟りに至った生涯を講話し、「百萬遍大念珠繰り」を修めた。これは数珠玉が1080顆（つぶ）、長さ110メートル、重さ350キログラムの大念珠を念仏を唱えながら繰る法要である。知恩寺は、後醍醐天皇の勅命により第八世空圓上人が、七昼夜の念仏で疫病を鎮めた功により「百萬遍」の寺号を受けた。

5日は大本山増上寺（東京都港区）が、小澤賢珠（けんじゅ）法主を導師に縁山流声明法要を修めた。増上寺は、東京大空襲で伽藍の多くを焼失したが戦後復興し、現在では宗教、文化活動の拠点として親しまれている。

6日は大本山金戒光明寺（京都市左京区）が、藤本浄彦（じょうげん）法主を導師に阿弥陀経を訓読し、叡山横川伝承の和讃節による礼讃を唱える三途講式を奉修した。金戒光明寺の名は、法然が43歳で比叡山から京の町に下り、当地で念仏を唱えたとき、光明が地を照らしたことに由来し、浄土宗最初の念仏道場とされる。

知恩院本堂で「百萬遍大念珠繰り」

7日は大本山善導寺（福岡県久留米市）が、阿川文正（ぶんしょう）法主を導師に、香月吉祥寺伝承の双盤（そうばん）念仏などの法要を修めた。善導寺は、浄土宗第二祖・聖光（しょうこう）上人が開き、九州一円に浄土宗を広めた。

8日は大本山清浄華院（しょうじょうけいん、京都市上京区）が、飯田実雄（じつゆう）法主を導師に信徒と念仏法要を修めた。清浄華院は、清和天皇の勅願により建立され、その後、法然上人が後白河法皇に授戒した際に浄土宗寺院に改められた。

最終の10月9日は総本山知恩院が、総本山知恩院門跡・伊藤唯眞（ゆいしん）浄土門主を導師に、四つの曲を用いる諸宗の大法要の中で最高の儀式法要と言われながら途絶えていた四箇（しか）法要を営んだ。知恩院は、法然上人が草庵を結んだことに始まり、入寂地の跡に建てられ、念仏の根本道場として多くの参拝者を受け入れてきた。開宗850年に向け、浄土宗では公式HPを開設している。

天地

11月5日、6回目となる毎年の地区の防災訓練があった。南海トラフ地震が30年以内で70～80％の確率で起こり、近くに断層が走っている香川県の町なので、震度6強の地震を想定している。朝8時、サイレンが鳴って訓練開始を告げると、まず、その場で頭を抱えてかがむシェイクアウト。次に、それぞれの家庭で住民安全の目印として、玄関にごみ袋を吊り下げ、7～8軒に一人の班長がそれを確認し、土砂崩れなどがないか見て回る▼その後、自治会館に集合し、班長は状況を報告。防災の担当者が市の助成金で購入した仮設トイレなどの防災用品を説明し、備蓄の水や食料などを点検した▼次に、自治会総人数の4％に当たる代表が中央の会場に移動し、訓練に臨んだ。①起震車に乗って地震の揺れを体験し、②シャベルを使って土嚢を作り、浸水の恐れがあるところに置き、③負傷者を救出するためのロープの結び方や簡易担架の作り方を習い、④段ボールや週刊誌を使っての骨折などの応急手当てを学んだ。実際やってみるとできないことも多く、子供たちも半ばゲーム感覚で取り組んでいた▼プラカードを持って参加者を訓練現場ごとに案内していると、小中学校の同級生に声をかけられた。顔はかすかに覚えているが、名前は出てこない。彼を含め同級生は3人しか見かけず、団塊の世代も次第に減っていく。地域活動は人生最後の御奉公だろう。

社説

第75回正倉院展を見て

奈良国立博物館で10月27日から11月13日まで、第75回正倉院展が開かれている。第1回は昭和21年で、敗戦で傷ついた日本人に、古代の素晴らしい文化を見ることで元気になってほしいとの思いで開催された。10月27日の内覧会で、奈良国立博物館の井上洋一館長は「今回はコロナ禍で傷ついた心を癒やす意味合いもある」と語っていた。

シルクロードの終着点でもある奈良には、中東をはじめ中国、朝鮮などからの渡来品も残されており、既にもとの国では消滅した品も多いことから、各国の研究者も正倉院の宝物に熱い視線を注いでいるという。

内覧会に招かれた韓国・国立慶州博物館の咸舜燮（ハムスンソプ）館長は「1300年以上前に作られたものが原形をとどめているのは極めて珍しく、世界的な文化遺産だ。韓日両国の研究者が交流し、研究が進むといい」と挨拶していた。

聖武天皇の袈裟

最初の展示場で目を引いたのは、光明皇后が記した聖武天皇の遺愛品の目録『国家珍宝帳』の筆頭に掲げられた「九条刺納樹皮色袈裟（くじょうしのうじゅひしょくのけさ）」である。九条衣は格式の高い儀礼服で、刺納とは刺し子縫いのこと。白や紺、淡青、緑、黄緑、赤紫などに染められた平織りの絹をほぐしたうえで、細かく綴り合せている。樹皮色とは最上の袈裟である「糞掃衣（ふんぞうえ）」の「糞掃」の語を避け、様々な色が重なった樹皮に似ていることから名付けたという。珍宝帳には「御袈裟」と記されているので、実際に着用された可能性もあり、それゆえ最も尊いとされてきた。

自らを「三宝の奴（やっこ）」（仏弟子）と称するほど篤く仏教に帰依した聖武天皇は、史上初めて出家した天皇である。律令制と仏教による国づくりは聖徳太子の時代に始まり、奈良時代の聖武天皇による東大寺の大仏造立で概成を見たと言えよう。聖徳太子と同じように聖武天皇も古来からの宮中祭司を守りながら、外来の宗教である仏教を国の礎の教えとしたのである。

人類史において宗教は、アニミズム的な段階の収穫の喜びや死の悲しみを分かち合う儀礼として始まり、それが集団を結びつける力として作用してきた。つまり、より大きな社会形成に伴い発展してきたのが宗教と言えよう。

その宗教に「救済」の概念が生まれたのは、紀元前8世紀から2世紀の頃で、ヤスパースは「枢軸の時代」と呼んでいる。救済は個人の内面にかかわる思いで、それによって宗教は普遍性をもつようになり、東西で世界宗教が生まれてきた。アジアでその代表が仏教である。

聖武天皇の仏教信仰には光明皇后の影響も大きいとされる。光明皇后が開基の法華寺は、総国分寺の東大寺に対して総国分尼寺と位置づけられ、正式には法華滅罪之寺（ほっけめつざいのてら）という。自己と国家との一体感があった古代において、国の災いは自分の罪のゆえとの思いが強かったのであろう。玉体を守ることが国を守ることであった。

そうした天皇と国家との関係を仏教儀式として完成させたのが空海で、その代表が玉体安穏・鎮護国家・五穀豊穣・万民豊楽を祈る後七日御修法（ごしちにちみしほ）の法会である。江戸時代までは宮中で行われていたが、神仏分離によって明治4年に廃止され、明治16年に再興されてからは、勅使を迎え東寺の灌頂院で真言宗最高の法儀として執り行われている。

自らの内に罪を感じ、救いを求める気持ちは天皇や貴族だけでなく、庶民も同じことから、やがて救いの宗教としての仏教を易しく説く鎌倉仏教が生まれた。空海から親鸞までの400年間は、日本仏教が一人ひとりの心に到達する営みの期間と言えよう。

日本の歴史が国際情勢、平たく言えば外圧によって変わってきたのは地政学的な必然で、近現代の日本は幕末・維新から始まる。日本仏教も、圧倒的な西洋文明、西洋近代哲学の洗礼を受け、見直しを迫られた。それによって始まる近代仏教が今の日本社会にある仏教である。

救いとは何か

ところで「救い」とは何か。心の中の状態であれば、どんな境地が救いと言えるのか。今に続く世界宗教が、いずれも都市から生まれてきたことから考えると、人がそこから生まれてきながら、離れてしまった自然との一体感の回復ではないか。ウパニシャッド哲学のいう「梵我一如」である。

梵（ブラフマン＝宇宙を支配する原理）と我（アートマン＝個人を支配する原理）が同一だとする思想で、釈迦はアートマンをなくす道を説いたが、それも一体化への一つの道であろう。道はいろいろある方がいい。いずれにせよ、奈良時代の宝物を見て宗教の長い歴史に思いを馳せるのも、日本人の幸せであろう。

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所 ■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二 東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話 03（3353）2940
FAX 03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話：03-6265-0852 FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

読みやすく、理解しやすく、真髄を極める達意の新訳
クルアーン
やさしい和訳
監訳著・水谷 周 訳補完・杉本恭一郎
2019年7月第3版発行、資料増補 大改訂 定価2700円＋税
国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL：03-5970-7421

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
（定価：本体2000円＋税）
日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纒向の地に大和国を建国。その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル102A
TEL 03-3813-6344 Fax 03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

新刊！
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
四六判296頁（本体1500円＋税）
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15 ラ リュミエール1F
TEL 03-6657-9000 Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

山喜房佛書林
神野富一著 A五判 五八〇頁 本体一六、〇〇〇円
補陀洛信仰の研究
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
福田亮成編 B六判 二九〇頁 本体五、八〇〇円
弘法大師聖句集成
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL：03-3811-5361 FAX：03-3815-5554

仏教の危機人生の危機に希望の矢を放つ…三部作
浄土真宗の智慧 釈尊から親鸞に学ぼう 定価1200円＋税
寺院経営がピンチ！ 坊さんの覚悟 定価1200円＋税
死に方の流儀 中村メイコさんと山折哲雄先生に訊く 定価1200円＋税
瑞田信弘（たまだ・のぶひろ）・著 浄土真宗本願寺派称讃寺住職
発行：アートヴィレッジ
〒663-8002 西宮市一里山町5-8-502
TEL 050-3699-4954 FAX 050-3737-4954
URL：https://artvillage.thebase.in/